

SICF13 出展クリエイター募集中！

募集期間：2011年11月1日（火）～2012年2月24日（金）

SICF13 開催期間：2012年5月3日（木・祝）～6日（日）

SICF ウェブ：http://www.sicf.jp/

スパイラルは、2011年11月1日（火）～2012年2月24日（金）まで、アートフェスティバル「SICF13」出展クリエイターを募集します。

SICF（スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル）は、東京・青山にある複合文化施設、スパイラルが企画運営する公募展形式のアートフェスティバルです。さまざまなジャンルのクリエイター100組を選出し、スパイラルホールを舞台に、次代を担う新しい才能を紹介します。来場者の投票によって決まるオーディエンス賞をはじめ、毎年、各審査員賞、準グランプリ、グランプリが授与され、これまで数多くのクリエイターが活動の舞台を広げて活躍しています。

スパイラルは SICF の主催・運営を通じて、次代のカルチャーシーンを担う若手クリエイターの発掘及び支援に取り組んでいます。つきましては、貴媒体におきまして取材・掲載をご検討下さいますようお願い申し上げます。



SICF13 出展クリエイター募集概要

ファイル受付期間： 2011年11月1日（火）～2012年2月24日（金）

応募方法： 市販のA4縦サイズのファイル1冊(20ポケット以内)に、以下の書類を順番に入れて、受付期間中に事務局へ提出してください。

(1)応募用紙。SICFウェブよりダウンロードし、必要事項や展示プランを記入。

(2)過去の作品写真や活動記録など

応募資格、条件： (1)国籍、年齢、作品ジャンル不問。ただし、期間中、会場に常駐できること。

(2)個人もしくはグループ。またはクリエイターを支えるスクール、レーベル、ギャラリーなどの団体。

出展料： 個人 ¥40,000(税込)／グループ ¥53,000(税込)

※PCなどの電気機器をはじめ作品自体に電源が必要な場合は別途電気使用料が掛かります。

電源使用量： ¥13,000(税込)※15Aまで

SICF WEB： <http://www.sicf.jp/> **SICF twitter：** [sicf_official](#)

お問い合わせ先・応募先：スパイラル内 SICF 事務局 〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23

TEL. 03-3498-1171／FAX.03-3498-7848

応募に関する詳細、最新情報は **SICF ウェブ**(<http://www.sicf.jp/>)をご覧ください。

■取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

スパイラル／株式会社ワコールアートセンター 広報部 加藤美穂、清水さえみ、四元朝子(よつもと ともこ)

〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23 TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848

E-mail press@spiral.co.jp WEB <http://www.spiral.co.jp/>

SICF の4つの特徴**審査員****多彩なジャンルから審査員を招聘**

SICF は、アート、デザイン、ファッションなどジャンルを超えて様々な審査員を招聘しています。SICF13 では以下の審査員を予定しています。審査員は審査の際、出展者それぞれに話を聞き、内側に隠されたコンセプトまでも含めて、慎重に審査を実施しています。

浅井隆(アップリンク取締役社長 / webDICE 編集長)

佐藤尊彦(株式会社ビームス販売促進本部プレス)

紫牟田伸子(編集家/プロジェクトエディター)

南條史生(森美術館館長)

岡田勉(スパイラルチーフキュレーター)

顕彰**グランプリ受賞者はスパイラルで個展開催**

SICF は審査を行う公募制のアートフェスティバルです。グランプリはスパイラル1Fのショウケースで毎年秋に個展を開催。制作補助費として 50 万円をサポートします。他受賞者も次回 SICF の受賞者展示に出展していただきます。クリエイターたちの作品が多くの方の目に触れるまたとないチャンスとなります。

グランプリ: スパイラル 1F ショウケースで個展開催
(制作補助費 50 万円)

スパイラル広報誌での紹介

次回 SICF での受賞者展示

準グランプリ: 次回 SICF での受賞者展示

オーディエンス賞: 次回 SICF での受賞者展示

各審査員賞: 次回 SICF での受賞者展示

SICF11 グランプリアーティスト展
青木美歌「animagraphy」より

**来場者****キュレーター、ギャラリスト、アートディレクター…、
出展クリエイターの可能性を広げる多彩な来場者**

SICF には毎年 4,000 名を超える方々が訪れます。中にはキュレーターやギャラリスト、アートディレクターなど、アートやデザインの分野で活躍する来場者が多く含まれているのも特徴の一つ。SICF での出会いをきっかけに多くの出展者が新しい活躍の場を掴んでいます。



SICF12 会場の様子

講評**アート界の明日を占う、審査員のコメントに注目！**

授賞式終了後に開催される講評は、日本のカルチャーに大きな影響を与え続けている第一人者たちが審査のポイントを自分たちの言葉で説明します。明日のアート界を占う重要なキーワードが盛りだくさんの講評は必聴！出展クリエイターの特権です。

参考資料:審査員紹介



浅井隆（アップリンク取締役社長 / webDICE 編集長）

アップリンクの社長として映画配給を中心に様々なカルチャーシーンで活動を行う。渋谷区宇田川町に映画館、イベントスペース、ギャラリー、カフェレストラン施設を運営、web マガジンとして"webDICE"では編集長を務める。

UPLINK : www.uplink.co.jp

WEB DICE : www.webdice.jp

バンクシーの『イグジット・スルー・ザ・ギフトショップ』を観た人は、アート業界ってこんなものかとわかったと思うので、自分のやりたい事をやればいいのかいまいかがありません。



佐藤 尊彦（株式会社ビームス販売促進部プレス）

カジュアルからモード、ラグジュアリーまでファッションを幅広く網羅し、カルチャー、音楽、アート、雑貨、インテリアとライフスタイル全般を提案する BEAMS のプレスを統括。またファッションやカルチャーを中心に、N.Y のインディペンデントマガジン<Lid>をはじめとした洋雑誌や洋書のバイイングも行う。

BEAMS: www.beams.co.jp/

日本のみならず世界各地で自然現象による被害が出ている中、これからの私たちは、何に対し、どのように向き合っていくのでしょうか？

東日本大震災の2か月後、悲しみと不安感を抱えた状況下で開催された第12回の参加者からは、展示決定後の出来事だったために、発表する作品について考え悩んだというコメントも多く耳にしました。

現在も解決できていない諸問題を抱えながら、表現者たちは何を感じ、考え、制作するのか、非常に興味があり、期待しています。



紫牟田伸子（編集家／プロジェクトエディター）

東京生まれ。美術出版社『デザインの現場』『BT／美術手帖』編集部、日本デザインセンターを経て、2011年9月よりフリー。「ものごとの編集」を軸に、商品企画、展示企画、プロモーション戦略、コミュニケーションデザイン戦略などを幅広く手がける。

主な共著に『カラー 版：日本デザイン史』（美術出版社）、『シビックプライド：都市のコミュニケーションをデザインする』（宣伝会議）、『ミュージアムと生涯学習』（武蔵野美術大学出版局）など。多摩美術大学情報デザイン学科ほか非常勤講師。

いま、パラダイムシフトが起こっています。新しい社会が少しずつ生まれているように思います。ものごとの価値も変りつつあります。

不変であるもの、普遍であるもの、変化するもの、移り変わるからこそよいもの... さまざまな価値観は表現されてこそ伝わります。

私はよく、創造することに人間の存在意義があるのかもしれないと思うことがあります。SICF の作品を見ていると、その思いを強くします。

創造して人とわかちあうことは、ヒトとしての大きな喜びかもしれません。あっと驚くもの、びっくりするもの、感心するもの、ほっとするもの、いろいろなものをここで見たいと思っています。元気いっぱい、力を見せてください。



SICF は、アーティスト、クリエイターが、自分で自由に応募できるイベントだと言う意味で、開かれている。これまでの価値観で図れないもの、ジャンルのはっきりしないもの、さらに新しい試みのなんだかわからないものでも出品できる。審査員の立場から言うと、出来るだけ実験的な作品を出してほしい。出品する応募者も、そのことを考え、意欲的な作品を持って応募していただきたい。

昨年と違うことがひとつある。それは、震災と津波と放射能問題が起こった翌年だということだ。このことを、どうとらえるか。無関係でいるか、そのことを反映して、ものをつくるか。

いくつかの選択肢があるのではないだろうか。

このイベントで、日本を元気にして欲しい。

クリエイティブな才能が、これからの日本を支えていくのだというメッセージを感じたい。

南條史生（森美術館 館長）

1949 年東京生まれ。森美術館館長。慶應義塾大学経済学部、文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。国際交流基金芸術交流部職員等を経て、2002 年より森美術館副館長、2006 年 11 月より現職。過去にヴェニスビエンナーレ日本館（1997）及び台北ビエンナーレ（1998）コミッショナー、ターナープライズ審査委員（ロンドン・1998）、アジアパシフィック・トリエンナーレ コ・キュレーター（ブリスベン・1999）、シドニー・ビエンナーレ国際選考委員（2000）、ハノーバー国際博覧会日本館展示専門家（2000）、横浜トリエンナーレ（2001）、シンガポールビエンナーレ（2006 及び 2008）のアートディレクター等を歴任。パブリックアート、コーポレートアートの企画も行う。慶應義塾大学非常勤講師。近著に「疾走するアジア～現代美術の今を見る～」（美術年鑑社、2010）がある。



3 月 11 日に発生した東日本大震災が私達に突きつけたのは、パラダイムシフトであり、これまでの生き方、価値観の再編集です。創造的な活動の目的も例外では有りません。

そもそも本 SICF は次代を担うクリエイターの発掘育成を目的としています。とりわけ今回は、表現を行う者のますます高まる重責を今一度認識し、新たな時代を築く希望の光を見い出す機会と捉えようと考えています。

岡田 勉（スパイラル チーフキュレーター）

1988 年、株式会社ワコールアートセンター入社。同社が運営する複合文化施設スパイラルのギャラリー担当。現在は同チーフキュレーター兼アートプロデュースマネージャー。スパイラルで行われる現代美術展の企画、プロデュースを始め、他の施設のための展覧会企画、パブリックアートのプロデュースなどを手がける。2005 年に行われた「愛・地球博」の公式アートプログラム事業のキュレーターを務めた。2009 年から横浜市の「象の鼻テラス」のアートディレクターに就任。

SICF13 開催概要

会期 A 日程: 2012 年 5 月 3 日(木・祝)- 4 日(金・祝) 11:00-19:00

B 日程: 2012 年 5 月 5 日(土・祝) - 6 日(日) 11:00-19:00

※両日程ともに 50 組 2 日間ずつ

会場 スパイラルホール（スパイラル 3F）

〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23

東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」駅 B1 出口すぐ

お問い合わせ TEL. 03-3498-1171(スパイラル代表)

SICF ウェブ <http://www.sicf.jp/>

SICF ツイッター [sicf_official](#)

主催 株式会社ワコールアートセンター

企画制作 スパイラル